

なが た  
永田 ゆづる 県政ニュース  
vol.04令和6年(2024)5月  
発行 奈良県議会議員 永田ゆづる  
奈良市登大路町30(県議会控室)

Nara Prefectural Administration News

## プロフィール

- 早稲田大学 商学部 卒業
- 元NHK報道記者 奈良・仙台・東京社会部(皇室・警視庁担当)

## その他の活動(所属)

総務警察委員会/観光振興対策・地域公共交通対策等特別委員会 副委員長  
議会改革推進会議/リニア中央新幹線建設促進協議連/京奈和自動車道建設促進協議連  
がん対策推進協議連/殺処分ゼロをめざす協議連/森林・林業・林産業活性化促進協議連

3/19: 予算委員会での知事との質疑

奈良県議会の2月議会は、令和6年度予算を主な議題として3月25日に閉会を迎えました。3月19日までの1週間にわたって行われた予算委員会では、奈良県の総合防災体制のあり方やスポーツ施設の整備が大きなテーマとなりました。委員会の最終日には午後11時30分頃まで議論が続き、今後の県政方針をめぐり10時間以上の激論となりました。この中で、県から提案された総合防災体制のあり方は課題や十分に検討されていない事柄が少なくないため、予算の原案を否決しました。議会最終日には、本会議に修正の予算案を提出し可決・成立しました。引き続き、是々非々の姿勢で県政の諸課題解決に向けて議論していきたいと思えます。

## ご挨拶



## 予算・観光委員会における質問

## 「平城京天平祭」の廃止について

委員会質問の録画▶



## 質問

奈良市の平城宮跡で開催されていた「平城京天平祭」の廃止が表明された。平成23年から始まった「天平祭」は、去年夏には約5万6000人が訪れ、過去最高の来場者数となった。時代行列や特産品の展示など人気を集める催しだったが、なぜ廃止という判断に至ったのか。「天平祭」を行いながらそのあり方を検討したり、県が主に関わる夏と秋の「天平祭」を統合して開催したりする



方法もあったと考えるが、どうか。

## 県の答弁

「天平祭」についてはこれまで一定の成果があり、費用対効果の面でも再検討が必要だと考えた。今後、観光の戦略本部を立ち上げるなどして、平城宮跡への歴史的な理解を深めてもらえるようハード面とソフト面を一体的に考えていきたい。

## 要望

「天平祭」は多くのボランティアによって支えられてきた。これまでの祭りのノウハウや人とのつながりなどを絶やさない工夫をしてほしい。今回の廃止により、平城宮跡を訪れる来場者が減ることが予想され、観光客数や県内消費額が少なくならないよう取り組みを進めてほしい。

## 予算委員会における質問

## 産後ケア事業について

## 質問

産後ケア事業を実施している自治体は1,462自治体(R4年度)にのぼり全国で大幅に増加している。県内では天理市や王寺町の実施件数が多い一方、奈良市は人口比でもまだまだ伸びる余地があると感じている。その原因についての分析のほか、産後ケア事業を周知するための取り組みをより一層進めていくことが必要と考えるがどうか。

## 県の答弁

産後ケア事業を実施できる施設を確保することが難しい自治体もあるため、県としてもそのサポートをするなどして拡大に努めていきたい。住民への周知という観点では、市町村で働く保健師を対象に産後ケア事業の研修を行ったり、医師会や助産師会などの関係機関とも意見交換したりするなどして取り組みを進めていきたい。





## 県防災担当職員の知事への提案

- 五條市の県有地で12haの防災拠点を整備  
(全国の応援部隊を受け入れ可能)

## 知事の決定・発表

- 五條市の県有地に約1haのヘリポートや約25haの“メガソーラー”を整備



## “中核拠点”としての課題



- 県立榎原公園を“中核的広域防災拠点”として整備
- 1 応援部隊の受け入れに不十分な面積
  - 2 液状化リスクの高さ(10<PL値※≤15)  
※液状化の可能性を判断する指標
  - 3 航空搬送拠点として機能するか未検討

知事は、ことし1月24日に県立榎原公園を“中核拠点”として県の総合防災体制を整備することを発表しました。ただ、この“中核拠点”は、南海トラフの巨大地震の発生時に自衛隊や警察・消防など全国の応援部隊等を受け入れるために必要な面積の半分程度しかありません。アクセス性の良さが強調されるものの、周辺の道路含めて液状化リスクが指摘されていて、防災拠点として整備される施設が災害時に機能しないというリスクをはらんでいます。航空搬送の拠点として位置付けられる陸上競技場では航空法上の課題もあり、ヘリコプターの運用が十分に可能か事前の検討もされていません

でした。防災の“中核拠点”の整備は、十分な面積や機能を持たせることができ、かつ予定地として考えられてきた五條市の県有地も含めて検討されるべきです。県の担当職員も上図のように提案しましたが受け入れられず、知事はすでにこの県有地で25haに及ぶ広大な“メガソーラー”の整備計画を発表しています。防災体制を万全なものとするを第一に考えるべきであり、“メガソーラーありき”ではいけません。4月25日には県議会の会派内で防災についての勉強会が立ち上がり、私もその一員として県議会でのより良い議論につなげるため調査・研究を進めてまいります。

## 空飛ぶクルマについて

### 要望

去年12月、“空飛ぶクルマ”の国の整備指針が策定された。令和6年度には“パーティーポート”と呼ばれる“空飛ぶクルマ”の駐機場をどう整備していくのか研究するための県の予算が計上されている。この駐機場を奈良市付近に建設が予定されている“リニア新駅”そばに整備して、地上と連動した交通革命を後押ししてほしい。“リニア新駅”から“空飛ぶクルマ”が飛び立てば、これまでのような京都から奈良を訪れる時代でなくなり、奈良から京都・白浜・琵琶湖に行く新しい時代となる。利便性の向上や県全体の観光振興につなげるためにも取り組みを加速してほしい。



## 県産農産物の海外販路拡大について

### 要望

奈良県産の農産物を海外へ積極的に売り込むことを支援しようという“販路拡大支援予算”が計上されている。県産のお茶はアメリカ・EUに、イチゴは東南アジアに需要があると捉えているということだった。ぜひ、こうした需要を正確に把握するとともに、利益につなげられるよう各国の事情を把握した上で対策を進めてほしい。将来的には、行政の支援なしに、例えば商社が奈良の農産物を海外に売り込むという段階にまでつなげていくことが重要だ。県産農産物を海外に売り込むためのバックアップを大いに進めてもらいたい。



少人数での座談会・県政報告も行っていますのでお気軽にお声がけください。



奈良県議会議員 永田ゆづる  
奈良市登大路町30(県議会控室)  
TEL : 050-3696-1053  
FAX : 0742-90-1108  
Mail : info@yuzurunagata.jp

